

発見!

たからモノ ただみの文化遺産

第8回

ミニテーマ展 「民具の聖地 只見」



11月18日、19日に只見町で日本民具学会の大会が開催されます。当館では、大会に合わせてミニテーマ展「民具の聖地只見」を開催します。只見町は町民による「只見方式の民具整理」が有名で、民具界にとっての聖地なのです。この展示では、館員4名が、それぞれのイチオシの民具を紹介します。

モミヨウシってなに？ 民具の名と形

「モミヨウシ持ってきて」と言われてわかりますか。脱穀したらモミだけけれど、ヨウシって？ 只見でモミヨウシという名の民具は、象牙みたいに曲がった大きな木、巨大なカミソリのような切れない刃物、餅がつかないほどくぼんだウスと先のとがったキネ。形は違うがモミを上からお圧してモミのせノギを取る民具です。同じ名でもいろいろな形をしている民具の造形を見てください。

(久野俊彦)



▲上：ヒラバモミヨウシ 下：モミヨウシボウ

家を守る民具 ヒブセ

ヒブセと呼ばれる民具は、家屋の上棟式の時に、木を彫って男根と女陰を模して作られました。棟木に男女が向かい合うように取り付けられました。家を火事から守るためヒブセと呼ばれますが、子孫繁栄や五穀豊穡をもたらす家の守りです。天井にあって見えにくいヒブセを集めて展示します。大きな男女のシンボルには、呪力が秘められています。今まで展示していない信仰に関する民具です。そのパワーと造形的美を味わってください。

(原永円香)



▲ヒブセ

ヤマダシ

ヤマゾリは、山で伐採した木材を山からおろすヤマダシの際に使用された道具です。木材の輸送、運搬は、2月の中ごろから3月の、雪の固くなる時期に行われました。ソリはヤマゾリとサトゾリがあり、幅を狭くして軽量化したサトゾリに対して、ヤマゾリは重い材木を運ぶため、幅広く頑丈に作られています。大きなソリは太く長いカジボウで舵取りをしました。その迫力を見てください。



▲ヤマゾリ・カジボウ

(鈴木みゆき)

オオノコかついで

子どもの背丈ほどもある1.5メートルの大きなノコギリをかついで、山に木の伐採に行きます。作業は何種類かのノコギリを使い分けました。まず、木を選び倒す方向を決め、「ウケ」と言われる切り口をヨキでつけ、そこからテンノウジ鋸で切り出します。最後、シンキリ鋸で芯を切り倒しました。テンノウジ鋸は、昔、会津藩が大阪天王寺からよんだ名工が作ったものだといわれています。オオノコの迫力を見てください。(目黒仁也)



▲上：シンキリノコ2本 下：テンノウジ鋸

写真：原永円香



ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報

入館無料



ミニテーマ展「民具の聖地 只見」

会期：2023年11月14日(火)～2024年1月8日(月・祝)

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール